

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	アウト・バースト	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.460	△RG	0.043	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：アウト・バースト

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

比較対照ボール：バースト

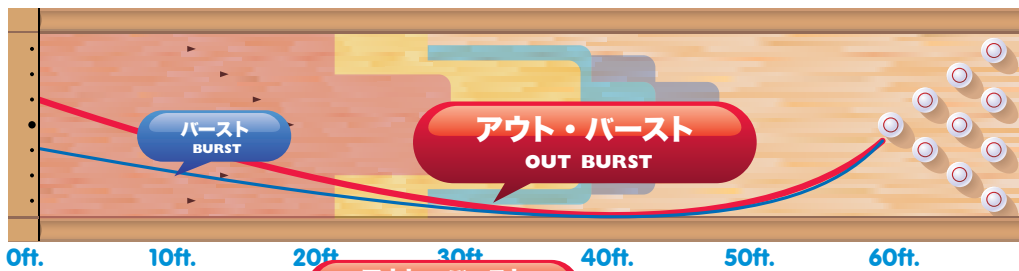
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

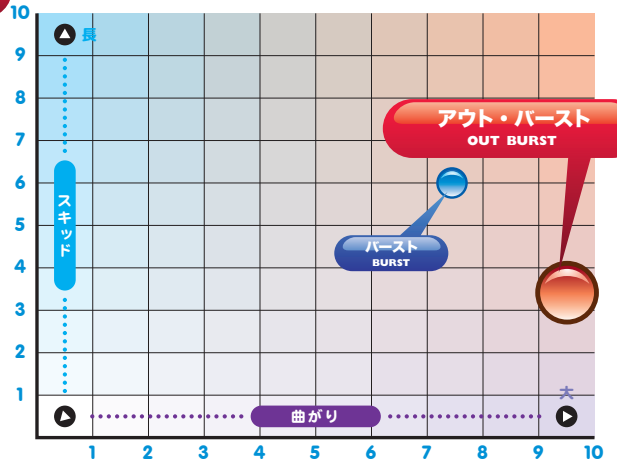
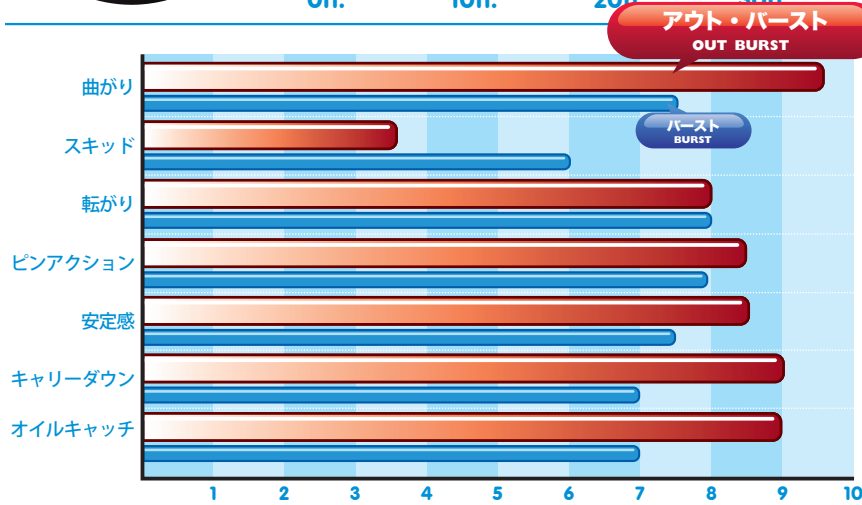
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

リサーチの性能をポリッシュ加工を施し、NOIZEシリーズの後継モデルとしてMP(ミッドプライス)で発売したバースト。起き上がりの安定感と先での切れ具合、総合的なパフォーマンスは多くの人に受け入れられ、お求め安いミッドプライスの価格帯もあり、ヒット商品のブランドにもなりました。

今回コロンビア社から発売されるOUTBURSTは、走って切れるドライゾーンからの反応を魅せたBURSTの性能から一変し、箱出し#800・800・1000・1000アブラロン仕上げの表記でも想像できるとおり、初代リサーチをバージョンアップして再び伝説のボールとなるべくリリースされます。

当時のリサーチと違うところは、手前のオイルが多いときに使用できるのは変わりませんが、今回コンセプトであるコロンビア社が求めた”強さ”を得るために新しいケミカルを投入し、先での動きを強くしてあります。私のイメージでは先での動きは強まりましたが、あの当時のリサーチの絶対的な安定感を感じさせてくれるものです。現在発売されているすべてのボールのパフォーマンスはあの当時より向上されているため、あの当時のイメージを追いかけながらリアクションを求めた場合、パフォーマンス自体の底上げをしなければなりません。今回カバーストックにNEW Era Reactive Plusという、やや奥にパワーを温存させながらリサーチのイメージをつくるということは、ただ単に「リサーチの作り直し」ではないというコロンビア社のテクノロジーの高さが伺えるボールと言えるでしょう。

適応コンディションはよりオイルを感じられるときであり、ボールの曲がりが多い方には積極的にこのボールを使用するべきでしょう。

特記事項

ただ単にリサーチのリメイクではなく、あの当時のセンセーショナルなイメージに先での動きを出し、現代のニーズに置き換えられ作られたボールです。